

健康福祉と防災のまちづくり推進事業

元真如堂町健康福祉と防災のまちづくりを考える会

京都市上京区中立学区「健康福祉と防災のまちづくり」アンケート調査結果報告【概要版】

調査の目的と概要

【調査の3つの目的】

今日、少子高齢化が進む中、ひとり暮らしや要介護のお年寄りが増えて、みんなで協力し支え合っていく必要性が大きくなってきています。他方、マンション建設等で新しい住民が増え、住民同士のつながりが希薄になってきているといわれます。特にこれから、大きな災害が起こった時に、みんなで支え合い助け合っていくことができるのか、とても心配です。そこで「日常の助け合い・互助の取り組みが活発な地域ほど、いざという災害時の人命救助につながる効果が期待できる」という立場で、以下の3つの目的で調査を行うことにしました。

【1】地域の中で、どんな課題やSOSの声があるのか、また、課題を解決・支援する力がどの程度あるのか、その現状を把握します。

【2】防災に対する意識と備えについての現状と課題を把握します。

【3】町内会・自治会で、今後健康福祉のまちづくりの推進や防災対策・防災計画を検討していくための基礎資料とします。

【調査の概要】

□調査の対象と方法

○調査の対象は、中立学区に住む町内会・自治会のすべての会員世帯です。
○配布と回収は、各町内会・自治会の防災担当役員の方に依頼しました。

□調査期間

○調査期間は、2017年3月6日(月)から19日(日)までで実施しました。

□配布と回収の状況

○調査票の配布数は1,232軒、回収数は629軒でした。回収数の内、白紙4、同じ回答(ダブリ)1、計5軒を除き、624軒を有効回答と認め、回収率は50.6%でした。

2015年国勢調査に見る中立学区の3つの地域特性

【1】中立学区は、人口も世帯も漸増傾向にあります。

人口は、2005年3,783人⇒2015年3,939人、世帯数2005年1,894世帯⇒2015年2,155世帯と漸増傾向にあります。

【2】中立学区の高齢化率は25.2%で、すでに超高齢社会(20%以上)です。

京都市26.7%、上京区27.1%ですから、京都市全体が超高齢社会となっており、中立学区は京都市の中では高齢化率がやや低いまちです。75歳以上も11.9%と1割強を占めています。また町別に見ると、最も高いのが龍前町で57.1%と6割近くに及んでおり、年少人口は0人です。反対に最も低いのは突抜町で5.1%でした。地域によって大きく異なっています。

【3】地域住民の69.8%、約7割の世帯が共同住宅(アパート・マンション)に住んでいるまちです。

2005年の住宅の建て方別世帯数を100として、2015年までの10年間の推移をみると、一戸建てが94.9とやや減少傾向となっています。共同住宅は139.9と約1.4倍に増加し、特に3~5階建ては150.6と約1.5倍に大きく増加しています。反対に長屋建ては31.9と大幅な減少となっています。構成比をみると、京都市の共同住宅が52.8%と5割強、上京区は60.1%と約6割、中立学区は69.8%と約7割に及んでいます。中立学区は約7割の人がマンション・アパートに住んでいるまちなのです。

16の検討課題

【地域特性とまちづくりの課題】

【1】「中立方式」を学び合う

「中立方式」と呼ばれた先進的な取り組みについて学び合い、さらに充実した内容になるよう検討する必要があります。

【2】「新中立方式」を検討する

これまでの「中立方式」に加えて、マンションと地域の新しい交流、健康福祉のまちづくりを柱とする等、「新中立方式」について検討します。

【3】新しいマンション住民との交流

7割の住民がマンション・アパートに住むようになった事実を踏まえて、町内会・自治会に加入していないマンションの方々とのおつきあいをどう進めるか、そして新しいマンション建設にどのように対応していくべきか、さらに検討していく必要があります。

【4】長屋建ての空き家問題の検討

長屋建ての空き家問題について、対策を強め、利活用について検討します。

【健康福祉のまちづくりの課題】

【5】健康増進とかかりつけ医

誰もが健康増進と疾病の予防のために、学び合い、かかりつけの医師、歯科医師、薬局をもつようはたらきかけていく必要があります。

【6】ひとり暮らしの高齢者の孤立化対策

ひとり暮らしの高齢者の孤立化が進んでおり、閉じこもりにならないための居場所づくり(「和い輪いカフェ」など)の取り組みを一層充実させ、町内ごとに見守り体制等をつくっていく必要があります。

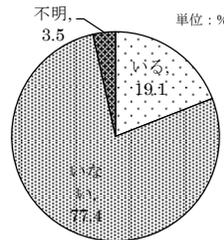
【7】認知症の人にやさしいまちづくり

認知症の方が急速に増えていくといわれています。安心して外出できる認知症の人にやさしいまちづくりについて検討していきます。

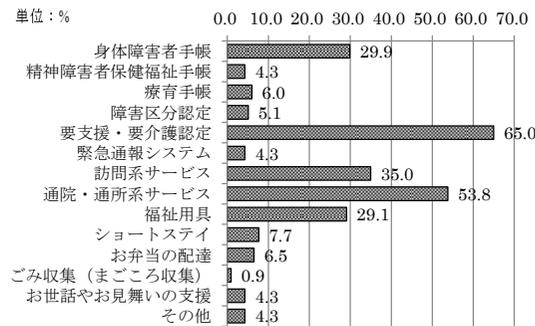
アンケート調査結果の分析

介護や医療の必要な家族の有無

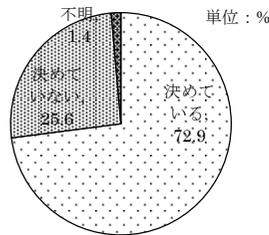
介護や医療の必要な家族が「いる」は、19.1%で約2割でした。受けている介護・医療の内容では、「介護認定」が65.0%と最も多い結果でしたが、3割半ばの人が認定を受けずに介護・医療を受けていることは大きな課題です。



受けている介護・医療の内容



かかりつけ医の有無



全国の結果(53.7%)と比べると多いといえます。

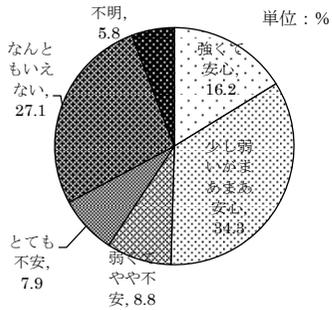
ひとり暮らし高齢者の孤立化の状況(年齢別)

項目	全体	ひとり暮らし世帯			
		小計	64歳以下	64~74歳	75歳以上
一日中だれとも話をしないことがある	9.9%	31.0%	25.0%	26.3%	38.3%
一日中どこにもでかけないことがある	23.9%	34.3%	18.2%	39.5%	42.6%
孤立感やさびしさを感じることもある	9.6%	22.2%	18.2%	10.5%	32.3%
何もやる気が起きないことがある	19.2%	23.6%	20.9%	15.8%	30.2%

「一日中だれとも話をしないことがある」人が「ひとり暮らし」で3倍と増えています。また、75歳以上で約4倍になるなど、高齢になるほど孤立化が進んでいると考えられます。

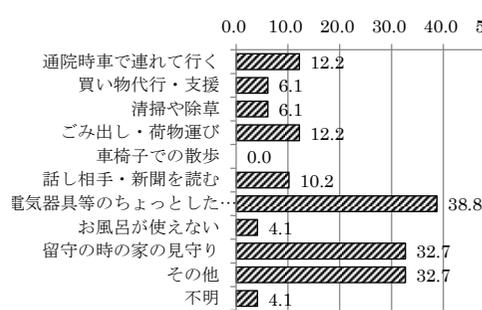
アンケート調査結果の分析

町内会・自治会のつながりの強さ



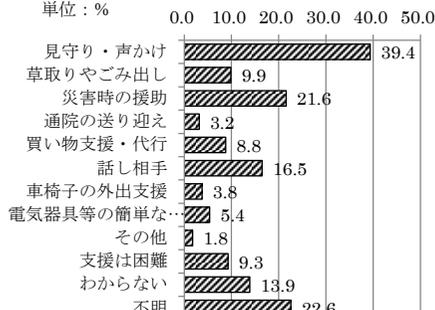
町内会・自治会のつながりの強さは、全体としてそれほど強いとはいえません。

支援してほしいことの内容

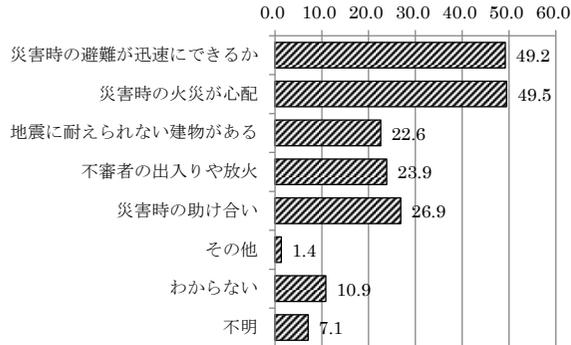


支援してほしい内容は「電気器具のちょっとした修理」が最も多く、支援できる内容と必ずしも一致していませんが、「見守り・声かけ」「災害時の援助」が高く心強い結果でした。

支援できることの内容

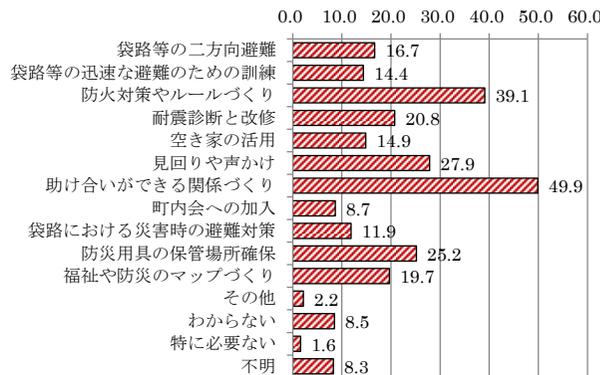


地域の防災の課題



地域の防災の課題は「災害時の火災」が最も多く、有効な取り組みは「助けあいができる関係づくり」が最も多いという結果でした。

防災の課題解決に有効な取り組み



「和い輪いカフェ」の認知度・参加の有無・参加希望

「和い輪いカフェ」認知度・参加の有無・参加希望のいずれもまだこれからです。みんなの「居場所」として大切な取り組み課題です。

【共催】2018年3月発行

- 中立学区住民福祉協議会
- 中立学区自主防災会
- 元真如堂町内会
- 元真如堂町健康福祉と防災のまちづくりを考える会

上段：度数 下段：%	知っていたか			参加の有無			今後の参加希望			
	合計	はい	いいえ	合計	ある	ない	合計	ある	ない	なんともえない
合計	593 100.0	277 46.7	302 50.9	585 100.0	57 9.7	515 88.0	576 100.0	89 15.5	126 21.9	349 60.1
小計	139 100.0	65 46.8	74 53.2	138 100.0	16 11.6	122 88.4	136 100.0	29 21.3	30 22.1	77 56.6
64歳以下	42 100.0	12 28.6	30 71.4	42 100.0	1 2.4	41 97.6	40 100.0	7 17.5	12 30.0	21 62.5
65~74歳	36 100.0	22 61.0	14 38.9	34 100.0	5 14.7	29 85.3	37 100.0	7 18.9	10 27.0	20 54.1
75歳以上	61 100.0	31 50.8	30 49.2	62 100.0	10 16.1	52 83.9	59 100.0	15 25.4	8 13.6	36 61.0

* この調査は、平成29年度「上京区まちづくり活動支援事業」及び「京都府地域力再生プロジェクト支援事業」の活動助成を得てまとめられたものです。

16の検討課題

【8】障がい者が安心して暮らせるまちづくり

車椅子で暮らしている等の障がいのある方が、安心して暮らしていくことができるまちづくりについて検討していく必要があります。

【9】在宅療養介護の体制づくり

在宅での療養介護が可能となるよう、地域で医療介護の連携とチームづくりについて関係各方面にはたらきかけていく必要があります。

【10】医療・介護の大きな変化に対応

「地域共生社会の実現」や「介護保険の『卒業』」など、医療・介護の大きな変化に対応できるよう検討していく必要があります。

【防災意識と備え】

【11】防災訓練を町内会・自治会で実施

現在の防災訓練をさらに充実させるとともに、地震と火災に対する備えや訓練を自治会・町内会単位で活発に行うようにします。

【12】防災福祉マップづくり

消火器の位置や防災用具の位置、さらには支援の必要な方等について、個人情報保護に留意しながら、「福祉・防災マップ」づくりについて検討します。

【13】相互の助けあいの充実

地縁よりも血縁を重視する京都らしい傾向を踏まえながら、相互の助け合いについて検討していく必要があります。

【14】「助けあいの会」のような組織づくりの検討

町内会・自治会ごとに、またはいくつかの自治組織の連合による「助けあいの会」のようなボランティア組織をつくり、見守り活動や生活支援の取り組みをしていくことを検討します。また、管理規約問題等のマンション固有の問題の解決に取り組みながら、マンションと地域自治会の協力の中で、マンションを防災の拠点にしていくことを検討します。

【和い輪いカフェの充実】

【15】「和い輪いカフェ」の一層の充実

「和い輪いカフェ」の認知度、参加者、今後の参加希望については、まだそれほど多いとはいえない状況にあります。今後徐々に増えていくものと考えます。カフェの楽しさや意義についての広報活動をさらに強め、健康体操や音楽会などのイベントを開催するなど、楽しいカフェのイメージアップを図るなど、さらに充実するよう検討します。

【16】より身近な場所での「居場所づくり」

会場が遠いのでなかなか参加できない人達のために、より身近な場所での開催について検討していきます。当面、西武、中部、東部の3か所での開催について検討していきます。

